

平成19年度
発生予察情報

特殊報第4号

平成19年11月5日
埼玉県病害虫防除所
(TEL:048-525-0747)

プラタナスグンバイによるプラタナスの被害の発生について

本種について、本県の樹木への被害が初めて確認されました。
吸汁により、葉に白いかすり状の脱色斑点が生じます。

特殊報：新奇な有害動植物を発見した場合及び重要な有害動植物の発消長に特異的な現象が認められた場合に発表するものです。

1 病害虫名 プラタナスグンバイ *Corythucha ciliata* (Say)

2 発生経過

- (1) 平成19年8月下旬、県内各地において街路樹として植栽されているプラタナスに、葉の白化症状が見られ、葉裏にはグンバイムシの成幼虫が多数確認された。
- (2) 本虫を採集し、農林水産省横浜植物防疫所に同定を依頼したところ、プラタナスグンバイであることが判明した。
- (3) 本種は北米原産で近年、ヨーロッパ、韓国などで分布を拡大している。我が国では平成13年に愛知県で最初に確認され、その後分布が拡大し、現在までに、東京都、京都府、大阪府、広島県、岐阜県、三重県、福島県で特殊報が発表されている。

3 形態及び発生生態

(1) 形態

成虫は体長が約3.5～3.7mmで、軍配に似た形態をしている。体色は全体的に乳白色で、前翅の中央に明瞭な黒褐色紋を有する。終齢幼虫は黄褐色で、頭部全体及び腹部の背面中央に太く鋭い棘状の突起がある。

(2) 生態

本種は国内では年3回発生し、プラタナスの樹皮下で成虫越冬するとされている。我が国では、プラタナス及びイタリヤポプラで発生が認められているが、海外ではクルミ科、ブナ科、クワ科、マンサク科、スズカケノキ科、トウダイグサ科、カエデ科、モクセイ科の広範な樹木に寄生するとされている。

4 被害

成虫、幼虫の吸汁により葉表に白いかすり状の脱色斑点が生ずる。また、葉裏は黒い粘液状の排泄物で汚れる。被害が激しいと樹冠全体が白化し美観が著しく損な

われる。

5 防除対策

薬剤による防除としては、樹木類のグンバイムシ類に対してスミチオン乳剤1000倍液散布（6回以内）の登録がある。



プラタナスグンバイ成虫



プラタナスの葉の白化症状



葉裏の寄生状況

< 農薬使用上の注意事項 >

- 1 農薬は、ラベルの記載内容を必ず守って使用する。
- 2 剤の使用回数、成分毎の総使用回数、使用量及び希釈倍率は使用の都度確認する。
- 3 農薬の選定に当たっては、系統の異なる薬剤を交互に散布する。
- 4 農薬を散布するときは、農薬が周辺に飛散しないよう注意する。
- 5 スピードスプレーヤを使用した防除ではドリフトが発生しやすいので、風のない日に適正な方法で散布する。
- 6 周辺の住民に配慮し、農薬使用の前に周知徹底する。